

健全な男女共同参画社会をめざす会

正しい男女平等とは

[トップ](#) [入会のご案内](#) [会報](#) [活動内容](#) [リンク集](#) [お問い合わせ](#)

[会報一覧に戻る](#)

なでしこ通信 3号

なでしこ通信 目次

第3号

○男女とも不幸になる「らしさ」の否定

東京女子大学教授 林道義

○会員の声 「男女の本質を育てる地域の伝統行事」

高須賀奈津子

○読書 三砂ちずる著「オニババ化する女たち」



健全な男女共同参画社会をめざす会
なでしこ通信 第3号 H17・2・1



*** 男女とも不幸になる「らしさ」の否定 ***

東京女子大学教授 林 道義

子供の自我が発達するときに、自分が男なのか女なのかという帰属意識はきわめて重要な意味を持つ。どの性に属するかによって、理想とするところが違ってくるし、他の性に対する尊重やあこがれが生じ、互いに尊重し合ったカップルが生まれやすくなる。しかし男らしさや女らしさを否定してしまうと、男も女も自分の理想を見失い、男は腑抜けになるし、女は下品になったりみだらになり、互いに相手に魅力を感じなくなってしまう。

そうなると、魅力もない相手と無理に結婚して苦労するよりも、気楽に独身を楽しむ方がいいということになってしまう。「男・女らしさ」の否定と「結婚する必要がない」という意識とは密接に関係しているのである。

男文化と女文化の分化こそ日本文化のすばらしさ日本文化は平安の昔から、言葉遣いや文字、服飾、和歌・文学や芸能など、男女別々の文化がそれぞれに競い合い影響し合い交じり合っ豊かに発達した。この男女別文化の分化と融合の繰り返しは日本の豊かな文化をはぐくんできたのである。男言葉と女言葉の違いも同様に貴重な文化として大切にされなければならない。

しかし男らしさと女らしさを否定してしまうと、男言葉と女言葉は遅れた文化だとされてしまい、男女不平等の証拠と見なされる。すると、その区別の意識から子供たちを「解放」しなければならないということになってしまう。こうしていわゆるジェンダーフリー教育なるものが登場するようになった。その結果、性差否定を子供たちに強制するという憂慮すべき事態が全国的に起きている。もはや女子高校生に対して「しとやか」「つつましさ」を要求することは社会的に不可能になっている。いまどき「行儀が悪い」とか「はしたない」と女子をしかる親や教師はまれである。

このまま放置していると、男女の区別意識がなくなってしまう、子供たちの健全な人格の発達が危険にさらされるであろう。とくに将来子供を育てる女子の結婚観、性道徳が崩れていることは、真に憂慮すべき事態だと言わなければならない。国をあげて早急にこの異常な事態を是正し克服しなければならない。〔神社新報 第2735号より抜粋〕



読書 三砂ちずる 著   「オニババ化する女たち」

昨年秋からブームを広げている本です。著者は津田塾大教授で、専門は女性の保健(リフ`ロダ`ケイブ`ヘルツ)を中心とする疫学。この本では、女性の体について、思春期、月経、性、出産という、もっとも本質的なことについて考察しています。その内容をいくつかみてみましょう。

■別にしたくなければ結婚しなくていいよ、仕事があれば子どもがいなくていいよ、という上の世代からのメッセージは、若い女性に一見自由な選択を与えているようですが、そこに『女としてのからだを大切にしない』という大きな落とし穴があることに、あまり気づかれていません。

■今、ちょうど子どもを産むくらいの世代の女性は、女性であること、女性だからできる経験を肯定的に見ていない人が多いのです。子どもを産むこと、母親として生きることは、仕方のないこととしてとらえられていて、あまり憧れの対象になっていません。

■私は女性の「他者を受けとめることのできる力」というのは、月経や性、そして出産を豊かに経験することで次第に身に付いてくるものだと思っています。

■非常に豊かなお産を体験した女性は、お産の前と後では人が違うのではないかと思うくらいに変革をとげます。お産を通じて自分のからだと向き合えば、非常にインパクトのある経験として、女性の人生の核となります。それは人間の根っこになるような経験ともいえます。

■性生活というのは出産と同じで、魂の行き交う場、霊的な体験でしょう。

非常にいいセックスの経験というのは、自分の境界線がなくなるような、宇宙を感じるような経験です...

■女性にとっては、子どもを産んで次の世代を育てていくということは、女性性の本質なので、そのほかのことというのは本当は取るに足りないことなのです。逆にそれらのことが中心にあるので、ほかのことに意味が出てくるとさえ言えます。

■過ぎていく世代にとって、伝承していく者があるということは、大きな喜びです。それは、命は連綿と続いていく、という意識の中に自分を置くことであり、老いて、死んでいく、という喪失感と向き合うために必要な作業なのでしょう。

著者は「オニババ」とは、本来性と生殖に関わるエネルギーを与えられて

いる女性が、その本来の力と機能を発揮されない状態に置かれ続けることにより、さまざまな精神的・身体的フラストレーションを起こしている状態、と説明しています。「個の自由」や「社会的地位」「経済的自立」といった視点のみで語られることの多い女性論ですが、自分の中にある女性としてのからだの声に耳をすませてみるのが大切なのではないのでしょうか。

「性」という字は心を生かす、と書きます。女性としての心とからだを生かすとはどういうことかを気づかせてくれる一冊です。（光文社新書 756円）

■□□学習会のお知らせ■□□

▼「健全な男女共同参画社会をめざす会」は、ジェンダーフリーに反対する人々の集まりです。入会にあたっては男女を問いません。ただ、女性の生き方に関係することが多いため、女性の集まりやすい昼間に「なでしこ学習会」と名付けた研鑽の場を設けました。だいたい月二回の学習会を開いています。

原則として毎月第一木曜の13～15時と

第三水曜の10～12時に開催しています。

（ただし2月の2回目は16日の水曜日ではなく18日の金曜日）

▼学習会では、各都道府県や市の情報、男女共同参画の動き、その問題点など

について意見を出し合い研修を深めています。また家庭や家族、子どもの学校の問題、職場の話、女性としての生き方など現実的な話題を楽しいおしゃべりの花を咲かせながら考えたりします。会場は人数や参加者のアクセスに合わせて随時決めています。お気軽にご参加下さい。会場についてはそのつど事務局におたずね下さい。

▼また、ジェンダーフリーって何かおかしそう、ジェンダーフリーということばがよくわからない、「奥さん」「主人」ということばがダメなんですって？等、どんな疑問でもOK。少し勉強したい、くわしく知りたいと思っている方のために出張に講話や出張茶話会もいたします。

■□□会員募集のお知らせ■□□

▼ 当会では広く会員を募集しています。まず、愛媛県議会において県の「男女共同参画条例」が改正されるよう、どうかお力をお貸し下さい。

■会報「なでしこ通信」をお送りします（年6回）。

■講演会・学習会等の行事についてご案内いたします。

【編集後記】 1月12日付の愛媛新聞におもしろい記事が出ていました。札幌の男女共同参画センターの利用料金が女性のみ半額になっているのは「逆差別だ」との苦情があったというのです。声を上げたのはメンズ・リブの男性団体。つまりおなじフェミニズムの仲間うちからの訴えだったわけです。そういえば私たちのまわりにはずいぶん女性優遇の料金体系が見られますね。パチンコ、ファミレス、ビアホール、ガソリンスタンド...こういうのも差別だという意見が次々出てきたら一体どうなるんだろう。画一的な男女平等はどんどん住みにく

い世の中をつくる？ (S)

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 小笠原ミワ子

〒790-0931松山市西石井1-3-30

電話090-3181-4004 FAX 089-964-3903

メール t64r59@bma.biglobe.ne.jp